

# 慈恩寺 Times

第二号

【発行】

慈恩寺国史跡指定推進委員会

【発行日】

平成 25 年 2 月 20 日 (水)

【問合せ・ご意見等】

寒河江市 生涯学習課歴史文化係

TEL:0 2 3 7-8 6-8 2 3 1

E-mail :shogaku@city.sagae.yamagata.jp

## 慈恩寺行事研究「古代・中世寺院の宗教行事」



節分  
2月3日

▲元興寺節分会の様子

元興寺で行われている行事は、地蔵会や節分会など戦後に復興された民間信仰の行事が多く、古代には官寺として国家安泰のための法会を行っていた元興寺が、現在は地域に開かれ地域と共に年中行事を盛り上げています。現在の元興寺の姿を象徴する行事の在り方を学び、慈恩寺は今後どうあるべきか考える良い機会となりました。

「元興寺の歴史と年中行事」  
— 古代から続く寺院で行われている行事とは —

慈恩寺で行われてきた行事から慈恩寺を知る「慈恩寺行事研究」。第4回目となる今回は奈良県の財元興寺文化財研究所 研究部長の狭川真一氏を講師に迎え、奈良市の世界遺産・元興寺で行われている行事についてお話をいただきました。約七〇名の参加者は狭川先生のユーモアのあるお話に熱心に耳を傾けていました。

元興寺は、飛鳥時代に建立された日本最古の寺・法興寺（飛鳥寺）が平城遷都とともに現在地に移されたお寺です。奈良く平安時代中頃までは南都七大寺の中心的存在として栄えましたが、その後は衰退し鎌倉時代以降は一転して民衆信仰の寺として栄えました。明治以降は再び衰亡します。

現在、元興寺で行われている行事は、地蔵会や節分会など戦後に復興された民間信仰の行事が多く、古代には官寺として国家安泰のための法会を行っていた元興寺が、現在は地域に開かれ地域と共に年中行事を盛り上げています。現在の元興寺の姿を象徴する行事の在り方を学び、慈恩寺は今後どうあるべきか考える良い機会となりました。



狭川真一先生

### 子どもたちが誇れる慈恩寺へ

2月12日に醍醐小学校のPTA研修会で、保護者を対象に慈恩寺国史跡指定について説明会を行いました。

荒木利見教育長が“「ふるさとを学ぶ」ということ”と題し講演を行い、「千年以上守り継がれてきた慈恩寺はふるさと・醍醐地区を学ぶための生きた教材であり、子どもたちのふるさとに



対する誇りとなるように、今後末永く継承していかなければならない。国史跡に指定されればそのための環境づくりがより充実する。」などと話されました。

### 慈恩寺を火災から守る

— 慈恩寺防火訓練 —

1月27日に文化財防火デー(※)に合わせ、慈恩寺で防火訓練が行われました。



本堂からの火災を想定し、本山慈恩寺や地元消防団のみなさんが連携しながら、通報・放水・仏像等搬出などの訓練をしました。

世界にただ1つである文化財は、焼失すれば元には戻りません。火の取扱には十分に注意しましょう。

(※)毎年1月26日。昭和24年1月26日に法隆寺金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基づいている。

達成  
メーター

慈恩寺国史跡  
指定までの道程



・学術的裏付け調査  
・総合報告書作成作業

・指定予定地確定

・指定予定地内  
地権者同意

・総合報告書  
完成

・文化庁へ  
指定具申書提出

・文化庁が  
文化審議会へ諮問



# 史跡・慈恩寺 Key Point

## 院坊堂社群①

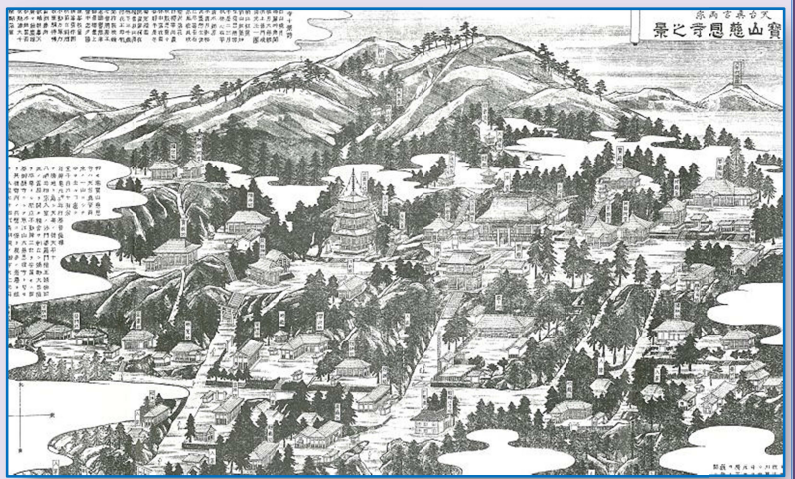
院や坊は寺の中の施設を指す言葉で、院はそれ自体が寺としての性格を持ち、坊は僧侶が生活を送る建物のことをいいます。

慈恩寺はかつて3カ院 48坊からなる一山寺院で、鎮護国家、除災招福を祈願する寺院でした。慈恩寺はこの院や坊の僧が役割分担をして組織的に運営していました。

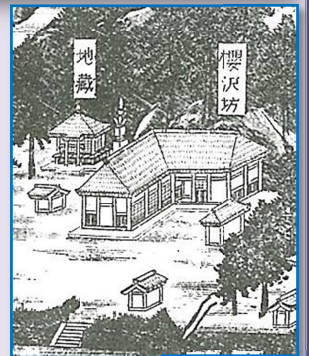
慈恩寺の僧が起居する院や坊の堂社・屋敷は、平場をつくりながら広範囲に広がり、慈恩寺は丘陵の南面に本堂を中心とした壮大な伽藍を形成していました。現在では、一見してなかなかわかりませんが、慈恩寺を描いた古絵図などを見比べると、屋敷や道の配置などが当時のまま変わっていないことがわかり、あまり知られていない慈恩寺の真の姿が浮かび上がってきます。

国史跡の指定には、この残された地形や地下遺構が重要なポイントとなります。

描かれた坊屋敷（桜沢坊）▶



▲ 羽州慈恩寺一山全図（明治35年）



慈恩寺への思い

## 宮殿の扉を開く

慈恩寺国史跡指定推進委員会

委員長 宇井啓

慈恩寺に春が来ると、五月五日の華やかな「一切経会」が繰り広げられる。その祭りは前日四日の夜の「濫觴会」に始まる。

花明かりの本堂に、お灯明を手にした近くの人たちが集まってくる。やがて静寂の中から厳かな楽の音が流れてくる。大勢の僧侶の読経は圧巻で、それが途絶えると、古風な宮殿の扉が開かれ、幕を押し上げて、覆面をした布施慶典管長が吸い込まれるように暗闇の中へ入っていく。

おそらく、真言を唱え清拭しながら、明日の祭りの無事を祈り、あの仏たち一体一体の勇気を鼓舞しているのであろう。

やがて、管長は幕を下ろして鍵をかけ「濫觴会」を閉じる。元は覆面をした与力坊（久保田家）の老女が鈴を振りながら一晩中本堂の周囲を回って警護したという。

「濫觴会」を見た日から何年経ったのだろうか。今でも鮮やかにあの夜を思い出す。



### イベント情報

## 慈恩寺秘仏展

国重文の木造阿弥陀如来坐像をはじめ、普段は見ることのできない4体の秘仏を一堂に展示します。

- 期日 平成25年4月28日(日) ~7月15日(月)
- 会場 本山慈恩寺
- 料金 一般・¥700 団体・¥500



## 慈恩寺国史跡 Q&A

Q. 史跡指定とは、何が指定されるのかよくわかりません。

A. 史跡とは「文化財保護法に基づき指定された遺跡※」のことを指します。 ※遺跡＝遺構（土地に刻まれた人々の活動の跡）＋遺物（人々が使用したモノ）  
史跡を構成する要素として、①歴史的建造物、②石垣・土塁などの地形、③地下の遺構・遺物及び④それらを含む一定の広がりを持つ空間が挙げられます。

慈恩寺でいえば、「現存するお堂や院坊屋敷」、「堂舎群形成地・中世城館社・修験行場跡など土地に刻まれた地形や地下遺構」などを含む総合的な空間を“慈恩寺の歴史的価値を物語る遺跡”として捉えます。

寒河江市ホームページ上に「慈恩寺 Times」バックナンバーを掲載中！

慈恩寺 Times

検索